平成 27 年度　「福島大学学生論壇賞」講評

学務担当副学長　三浦浩喜

今年で 6 年目と学生論壇賞は、「本学の将来ビジョンや教育研究上の改善策など、本学のよりよい未来を切り拓くことに貢献するもの」という目的で募集しました。

ここのところ応募件数が低迷する本事業でしたが、昨年度は計 10 篇の応募がありました。期待された本年度は学類生からの応募 3 篇のみに留まり、今後の本賞のあり方についても改善を加える必要があるように感じます。

今回は厳正な審査の結果、最優秀賞、優秀賞が該当作品なし、佳作に学類生２篇としました。入賞した論文のコメントは以下の通りです。

○ 佳作：人間発達文化学類４年生　緑川　英将（ひでのぶ）「本気との出会いが学生を変える」

4 年生の筆者は福島大学に入学以来、「自然体験学校」や「子ども支援ボランティア」「ＯＥＣＤ東北スクール」などのプロジェクト学習に関わってきました。当初はこうした活動に対し違和感を持っていましたが、活動に深くかかわっていくうちに本気で指導する教員との出会い、仲間とのふれあいを通して、学生が成長する上での重要性に気づき、自分の進路も見つめ直します。

筆者はこれを踏まえ、大学の教員に対し授業やこうしたプロジェクトにリソースを投入してもらいたいという点、もう一つはこのような場をもっとたくさん設定してもらいたいという点の二つを提言します。

本篇は筆者の経験を通したものであり、熱い思いが伝わってくると評価される一方、提言内容の具体性が弱く、書き方が感想レベルに留まっているのではないかという意見も出されました。

○ 佳作：経済経営学類　２年　二村　悠果

「図書館を有効的に活用し、より良い学生生活に」

昨年リニューアルした図書館をさらに有効活用するために 24 時間開館にしてもらいたいという、具体的かつ建設的な提言です。国内には図書館を 24 時間開館にし、学生の学びの総合ステーションとして機能している大学がいくつかあり、アンケート調査をもとにして、本学もそのような形にしてはどうかという提案です。さらに図書館で公開の特別講義を行うことで、学生や図書館利用者の学びを広げていきたいというアイディアも出し、その建設性が評価されました。

一方、それを実現するためには財政的な裏付けが必要であり、そのためのアイディアをいくつか提起してはいるのですが、その裏付けとなるデータが弱く、また金谷川という立地条件がどれだけ多くの利用者がその恩恵を受けられるかという意見も出されました。